

テクノアカデミー浜 令和7年度産業人材育成推進協議会 議事録

日 時： 令和8年2月13日（金）13:30～15:20

場 所： 福島県立テクノアカデミー浜 101教室

出席者所属：

南相馬ロボット産業協議会
福島県自動車整備振興会
福島県建設業協会
株式会社ゆめサポート南相馬
原町商工会議所
相馬商工会議所
福島国際研究教育機構 (F-REI)
福島県立小高産業技術高等学校
相双公共職業安定所
相馬市産業部商工観光課
南相馬市商工観光部商工労政課
相双地方振興局
テクノアカデミー浜

【座長】

復興創生を担う産業人材についてご意見を伺う。

【南相馬ロボット産業協議会】

先ほどの説明で、テクアカを知らない高校生が75%ということは、25%は知っているということになる。4分の3が知らないということは、もっと学生が集まるということである。浜校は、相当魅力のある授業が多いと思っている。ロボエネと機械技術科しか知らないが、室屋氏との連携など魅力のある人材育成を行っている。魅力の発信が足りないと思う。

【座長】

関心をもっていない方々にどのように伝えるか考えていきたい。

自動車整備関連産業として、どのような人材が不足しているか、本校に対する人材育成についてご意見を伺う。

【福島県自動車整備振興会】

自動車整備に最低限必要な、工具の使い方、様々な材料、機械の構造の知識が必要であり、走る曲がる止まるの3原則に則った基礎勉強も必要である。自動運転レベルIVなどの内容は学校に求めない。

自動車は、操作するものから設定するものになりつつある。自動車整備士は、コンピュータ、パソコン、スキャンツールなどITの勉強が必要となってくる。

パーツ&バイツ&サービスと、電子的なメモリーの故障などにも対応しなければならないが、学校では基本的な資格を取るための勉強をしているので、ITの部分は、企業が対応すれば良いと思う。安全衛生、有機溶剤や人体に影響のある基本的な知識を学んでほしい。

【座長】

建設関係の企業として、どのような人材が不足しているか、期待するところを伺いたい。

【福島県建設業協会】

浜校は、相双地域で建設土木関係の唯一の学校である。震災前には、原町工業、相馬農業の農業土木科、双葉農業の農業土木科があったがなくなった。唯一浜校が、建築土木に対しての入り口になっているので、地域としては、この学校がなくなるとは困る。是非残して頂きたい。

建築業も、自動車整備と同じで昔は、技能職だったものが、電子技能職になってきている。DX化が進み、パソコンやドローンを使えることが必要である。

建築科では、2級建築士を教育する内容になっているが、今は、そのほかに、力学計算や書類を作成できる技術者が求められる。

住宅も、昔のように木を刻んで組み立てるよりも、プレカットしたものを組み立てるようになっている。そのために必要とされる資格、トラックから荷卸しす

るための玉掛や高所作業者の取得をしていただければありがたい。

また、測量から始まって設計、工事、施工の一連を2年間で学べると助かる。

学生募集活動は、高校では遅いのかもしれない。中学校、小学校の高学年から職業教育が必要である。ものづくりをしたい人材を掘り起こした方が良い。

また、振興局で主催しているアウトオブキッザニアでは、建設関係は、大好評である。働く車や、バックホウなどのシュミレーションなど子供たちは、夢中でやっている。しかし、いつの間にか、ほかの職種に流れて行ってしまう。

やはり、高校にリクルートするのではなく、もっと中学校小学校を開拓して頂くと面白いと思う。

【座長】

原町商工会議所、相馬商工会議所には、在職者訓練、障がい者訓練の広報で協力を頂いている。管轄の地域の産業人材育成の課題、期待するものがあれば伺いたい。

【原町商工会議所】

在職者のテクノセミナーについては、商工会議所で開催告知を行っている。セミナーの開催時期より早めに情報を頂きたい。開催時期を知らせる方法は複数ある。

商工会議所の役員が集まる会議が、年に何回かある。その際に、学校の説明を頂くようなこのとも可能なので、相談や打合せにはご協力させて頂きたい。原町のリーダー的企業に口添えできると思う。

テクノセミナーの内容をもっと共有できればより良い対応ができる。

先ほど、浜校の認知度の話があったが、自分で苦勞して説明しても通じることがわからない。方法にはいくつかあって、最近よくあるSNSなどは有効だと思う。就職率100%、それから2級自動車整備士合格100%とか素晴らしい学校なので、機能的にお知らせするようにして欲しい。

【相馬商工会議所】

先ほど認知度の話があったが、南相馬より相馬はまた認知度が下がると思う。商工会議所もPRの協力をさせて頂きたい。浜校が、いろいろな技術人材育成をしているということを知らせなければならない。

人材不足で、商工会議所でも求人を出すと、なかなか良い人材が集まらない。採用してみると、コミュニケーション能力などがいないため辞めていく者もいる。

相馬市は、一学年、相馬高校160名、相馬総合高校160名、合計320名ぐらいで、おおかた90%以上が進学専門学校であり、若者が流出してしまう。

浜校は、地域企業に優秀な人材を輩出する大事な施設だと思っている。

その延長線上で地域を支えていくのが我々商工会議所である。

若者が流出してしまい、地域が委縮している状況なので、誘致企業へ送り込め

る人材育成を期待したい。

【座長】

学生募集についてアドバイスがあればお伺いしたい。

【小高産業技術高等学校】

本校も定員に対して約6割が集まっている状況である。毎年、相双地区の中学校説明会に参加し説明している。全体的に子供が減っている中で100%集めるのは難しい状況にある。

高校の人材育成ということで、地域で活躍できる人材を育てる、地域の方と一緒に取組んでいく。やはり、魅力発信を続けながら、生徒たちをいかに丁寧にしっかり育てて、地域や進学先に送り出していきたい。

【座長】

介護人材雇用状況についてコメントを伺いたい。

【相双公共職業安定所】

介護関係の求人は3.24倍である。求職者は41名しかいないが、求人は133名である。さきほど、建設業支部の方がお話しされていた建築・土木技術者は13.24倍である。企業側は有資格者で若い人材が欲しいと言っているが基本的にいない。そこで、人材育成開発助成金を使って、人材育成をしていただくのが1番だと思う。

【座長】

在職者訓練（テクノセミナー）についてのご意見をお願いしたい。

【株式会社ゆめサポート南相馬】

浜校にご協力を頂いて、クロステック育成塾は、十分目的を達成できた。受講生を集めるとき若干の苦労があったものの、地域の産業界からは好評であった。

皆さんのニーズに沿った内容を、しかもエフレイと連携してできた。新年度も同様に取組みたいと考えている。

今回は、実現に向けて毎月1回約1時間半のミーティングを実施した。

さきほど、建設業協会から、職業教育として中学校や小学校の話がでたが、市教育委員会や学校で受けいれてもらえるよう働きかけをお願いしたい。

コロナ以前は毎年、地元産業協議会の企業を紹介する教室が開かれていた。リアルに企業の方が、小学生中学生と直接触れることができる機会が失われてしまった。これらをうまく実施することは、実は、テクアカの学生募集に繋がると思う。

【座長】

エフレイとの連携についてお伺いする。

【福島国際研究教育機構 (F-REI)】

エフレイは、令和5年4月に設立された、福島県の浪江町に拠点を置く国の研究機関である。4つの機能として、研究開発、産業化、人材育成、司令塔を軸として活動している。他の研究機関と異なるところは、産業化に重点をおいているところである。

福島をはじめ、東北の復興につなげていくというのが、エフレイのミッションである。そういった中で、この産業化を、この地元から支えていただく人材とその育成が非常に重要だと思っている。

この地域で、F-REIの研究開発成果の社会実装を担う人材が非常に重要であるため、企業人材や社会人向けの専門教育やリカレント教育などを準備し検討していく必要がある。

先ほどご紹介いただいたクロステック育成塾については、良い機会をいただいたと思っている。研究成果を、社会実装していくためには、まず研究の中身を知り興味を持っていただくことが、入り口だと思っているので、そういった意味で非常に良い機会をいただいたと思っている。今後、対象者であったり、やり方であったり個別に連携を検討していければと思う。

【座長】

離職者等再就職訓練についてお伺いしたい。

【相双公共職業安定所】

職安も同じく、離職修了後3か月以内の就職率75.6%という数値目標をもって事業を実施している。現在は、オンライン訓練、DTP、ホームページ作成などの訓練が多くなっている。実績、経験がない求職者は、就職が厳しい状況になっているが、社会に必要な人材なので、求人開拓を含めて就職率のアップをしたいと思う。

【座長】

本校との連携についてお伺いしたい。

【相馬市商工観光課】

子供科学フェスティバルは、学校の先生1人の授業から始まった事業で、子供たちに、科学を教えたいというきっかけだった。色の三原則など、小さい頃から科学に触れる機会を作っていくというものだった。少子化が進み、親が子供と接する機会が減っているので、今後とも事業を進め連携していきたい。

【南相馬市商工労政課】

南相馬市内には大学がなく、卒業した後の進路先の一つとして、テクノアカデミー浜がある。存在意義は大きい。一度市外に出た若者たちに、市内産業の魅力やすばらしさを伝えるのは難しいので、地元にいるうちに、市内の産業や技術を知ってほしい。子供向けや高校生向けの企業見学会などが重要になってくると

考えられる。

【相双地方振興局】

アウトオブキッツニアなど、日頃より振興局にご協力頂き改めてお礼申し上げます。アウトオブキッツニアに限らず、小学生、中学生の小さい頃から地元の企業の仕事を知って頂くことが大事なことである。先ほども話にあったが、南相馬市には高等教育機関はテクノアカデミー浜だけである。高校生が、進学すると県外、仙台に流出してしまうので、将来、就職する10、15年経って地元でUターンするなどのタイミングで、そういえば、地元でこういう仕事があったと思いついて出してもらえよう意識しながら取り組んでいる。

先月には地元の高中生と地元の企業の交流会を実施した。こういった地元企業を直接知ってもらう取組を進めていく。継続していくことが大事であり、新年度も実施の予定なので引き続きご協力をお願いしたい。

【座長】

全体を通してご質問、ご意見があればお願いします。

【福島県建設業協会】

学生が素晴らし成果を出しているが、なかなか浸透していない。広報を今まで通りのパンフレットやチラシではなく、SNSやインスタグラムなどを活用したらよいと思う。

【座長】

授業風景やイベント参加をインスタグラムとXで発信はしているが、いろいろな手法を取り入れながら進めていく。

【福島県自動車整備振興会】

地元愛がだんだん若年化していると感じる。海外、ドイツに行ったときEV化などが原因で国の景気が悪い。ドイツは難民受け入れの政策があり、自分たちの税金が自分たちの救済のために使われるのではなく、企業を圧迫するように法人税が上がっている状況で、国から離れたい風潮になっている。そこで、日本の企業に近づいている気がする。メーカーが取り組んでいるのが、再就職のためのリスキリング教育であり、10年も前から行われており、そういったサポートを行って、技術者がうまく配分されるようになっている。やはり、地元愛が出ている。

また、東南アジアに行くと、今までは、賃金が高い海外で働きたいという傾向だったが、コロナ後は、質の高いところに行きたいという傾向に変わった。東南アジアの人たちの日本人気は5、6番であったが上位になってきている。理由として、国に戻って還元できるという人が増えてきた。そういう、部分も含めて、まだまだ我々が気づかない魅力が地元にある。やはり、相馬、相双、南相馬この福島に戻ってきてもらいたいと思いががあるので、魅力の発信など自治体からサポ

ートしてほしい。

自動車関係もいろいろ変わってきて、大型重機や建機の整備もやるようになってきた。産業機械関係は復興につながる。重量物は油圧、細かいものはモーターである。自動車整備士と比較し、建機の整備士の割合は、80分の1から100分の1であり、建機の整備士は少ない。理由としては、管轄が異なり、自動車整備は国土交通省、建機は厚生労働省である。また、建機はオペレーター資格と整備資格は異なり、建設機械整備には時間がかかる。これらを含めて、地元に戻ってきて、災害に一番活躍する整備やメンテナンスができるよう、今後考えていかねければならない。やはり、技術を持った人、例えば、建築大工が、自分の建てた家に誇りを持ったりするような若者が増えてほしい。こういった魅力を伝えられるようなカリキュラムを教えてもらえればよいと思う。

【座長】

皆様の貴重なご意見を参考に今後の施策に反映していく。